

平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年2月6日

上場会社名 神鋼鋼線工業株式会社
 コード番号 5660 URL http://www.shinko-wire.co.jp
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 水口 征之
 問合せ先責任者 (役職名) 総務本部総務部長 (氏名) 平井 久嗣
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月12日

上場取引所 東

TEL 06-6411-1051

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	21,176	—	1,414	—	1,321	—	△97	—
20年3月期第3四半期	17,661	12.2	1,635	56.5	1,698	102.5	1,012	101.0

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	△1.84	—
20年3月期第3四半期	18.28	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	%
21年3月期第3四半期	42,973	—	16,904	—	32.3	—	265.79	—
20年3月期	34,159	—	14,519	—	42.5	—	272.02	—

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 13,865百万円 20年3月期 14,519百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	2.00	—	3.00	5.00
21年3月期	—	2.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	3.00	5.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,160	22.4	1,910	△21.6	1,830	△15.6	120	△90.7	2.28

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有
 新規 1社(社名 株式会社テザックワイヤローブ) 除外 1社(社名)
 (注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
 (注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)
 ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
 ② ①以外の変更 無
 (注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。
- (4) 発行済株式数(普通株式)
 ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第3四半期 58,698,864株 20年3月期 58,698,864株
 ② 期末自己株式数 21年3月期第3四半期 6,533,396株 20年3月期 5,324,278株
 ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第3四半期 52,559,702株 20年3月期第3四半期 55,380,967株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

・当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(参考) 個別業績予想

平成21年3月期の個別業績予想(平成20年4月1日~平成21年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	22,030	8.8	1,630	23.5	1,380	7.9	150	80.3	2	85

(注) 個別業績予想数値の当四半期における修正の有無 : 有

・ 定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米国に端を發した世界的な金融危機による実体経済への影響の深刻化に伴い、第3四半期に入り国内外の景気は急速に悪化してまいりました。

一方、当社グループを取り巻く事業環境は、公共投資関連需要が引き続き低調で、また民間需要も昨年秋季以降の急激な需要減退の影響を受け、加えてコスト面では主材料であります線材価格の高騰の影響もあり厳しい状況で推移しました。

このような状況に対しまして、当社グループは、需要構造の変化に対応した事業構造、製品構成の転換を着実に進めてまいりました。また諸資材の高騰に対しましては販売価格の是正に努めるとともに収益改善プロジェクトの推進によって徹底したコスト削減を図ってまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、新たに加わった連結子会社の業績寄与もあり売上高は21,176百万円で前年同期に比べ19.9%の増収となり、営業利益、経常利益は、それぞれ1,414百万円、1,321百万円となりましたが、取引先の会社更生手続き開始申立てに伴う貸倒引当金繰入額などの特別損失の計上によって97百万円の四半期純損失となりました。

つぎに事業の種類別セグメント毎に業績の概況をご報告いたします。

線材製品関連事業

(PC関連製品)公共事業投資関連では、政府・地方自治体の公共事業予算は減少が続いており、また民間投資関連では、前年度の改正建築基準法による影響が緩和してきたものの、サブプライム問題に端を發した不動産関連事業の減速、景気の急速な悪化によりマンション需要の市況は更に厳しさ増してまいりました。しかしながら、新技術・高付加価値製品の提案型営業に注力した結果、数量、金額とも堅調に推移しました。

(ばね・特殊線関連製品)主要な需要分野である自動車産業向けの弁ばね用鋼線(オイルテンパー線)は、世界的な金融危機による自動車産業の急激な需要減退の影響を受け、第3四半期に入り販売数量・売上金額とも減少が顕著になってまいりました。また、OA関連製品、家電・弱電向けのばね用ニッケルめっき鋼線は主要な販売先である北米市場の急激な需要減退の影響を受け、販売数量・売上金額とも大幅な減少となりました。更に、ステンレス鋼線は主力の建材関連向けが依然として低迷していることに加え、需要家の買い控えや在庫調整の加速による影響を受けました。

(ワイヤロ-プ製品)国内総需要は第2四半期までは総じて堅調に推移しましたが、第3四半期に入り景気の悪化に伴って減少傾向となりました。全体としてはエレベータ、建設機械、デッキクレーン向けは好調で、また販売価格の是正効果もあって、販売数量・売上金額とも増加しました。尚、第3四半期からは新たに連結子会社となったテザックワイヤロープの販売数量、売上金額が加わりました。

その結果、線材製品関連事業全体の売上高は、20,159百万円と前年同期に比べて20.9%の増加となりました。

エンジニアリング関連事業

吊構造用ケーブルにつきましては、橋梁向けおよび建築向けとも増加して売上増となり、落橋防止ケーブルにつきましても売上を伸ばしました。一方、道路騒音防止関連製品並びに橋梁補強・海洋ケーブルにつきましては、前年同期に比べて大幅に減少いたしました。

その結果、エンジニアリング関連事業全体の売上高は967百万円と前年同期に比べて3.1%増加となりました。

不動産関連事業

売上高は前年同期並みの49百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は、前連結会計年度末との比較において、次のとおりとなりました。

総資産は、8,814百万円増加の42,973百万円となりました。これは主として新たに加わった連結子会社の資産が増加したことによるものです。

負債は、6,429百万円増加の26,069百万円となりました。これは主として新たに加わった連結子会社の負債が増加したことによるものです。

純資産は、2,384百万円増加の16,904百万円となりました。これは主として新規連結子会社の少数株主持分3,038百万円によるものです。また、自己資本比率は32.3%となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

国内外の景気は急速に悪化しており、民需関連における急激な需要減退、在庫調整の加速等の事業環境の変化を踏まえ、売上高及び利益とも前回公表（平成20年12月2日）しました予想を下回る見通しとなることから、業績予想を修正しております。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

当社は平成20年8月27日に株式会社神戸製鋼所が保有する株式会社テザックワイヤロープの株式の一部を追加取得しました。これに伴い同社は当社の連結子会社（特定子会社）となりました。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

たな卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として、合理的な方法により算定する方法によっております。

繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度末において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングに、前連結会計年度末からの一時差異等の重要な変動を加味したものを使用する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

たな卸資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産については、従来、製品、原材料、貯蔵品は総平均法による原価基準、仕掛品はエンジニアリング部門の一部については個別法による原価基準、その他は総平均法による原価基準によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号）が適用されたことに伴い、製品、原材料、貯蔵品は総平均法による原価基準（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）、仕掛品はエンジニアリング部門の一部については個別法による原価基準（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）、その他は総平均法による原価基準（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。

この結果、従来の方法によった場合に比べ、売上総利益、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益が58百万円それぞれ減少しております。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,773	2,518
受取手形及び売掛金	11,567	8,646
商品	39	—
製品	3,669	2,343
原材料	1,780	1,467
仕掛品	2,367	1,689
貯蔵品	466	470
繰延税金資産	142	257
その他	469	483
貸倒引当金	△128	△0
流動資産合計	24,148	17,877
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,142	3,709
機械装置及び運搬具(純額)	4,552	4,398
工具、器具及び備品(純額)	194	152
土地	5,885	3,243
建設仮勘定	388	31
有形固定資産合計	16,162	11,534
無形固定資産	85	58
投資その他の資産		
投資有価証券	403	2,388
長期貸付金	0	0
繰延税金資産	1,673	1,379
破産更生債権等	762	—
その他	528	955
貸倒引当金	△791	△35
投資その他の資産合計	2,577	4,688
固定資産合計	18,825	16,281
資産合計	42,973	34,159

(単位:百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,039	3,274
短期借入金	6,705	5,149
未払費用	1,344	1,216
未払法人税等	361	598
賞与引当金	246	435
その他	666	445
流動負債合計	14,364	11,119
固定負債		
長期借入金	7,515	6,400
退職給付引当金	2,414	1,896
役員退職慰労引当金	12	—
環境対策引当金	94	51
繰延税金負債	556	—
負ののれん	292	—
その他	820	172
固定負債合計	11,705	8,520
負債合計	26,069	19,639
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,062	8,062
資本剰余金	6,354	6,354
利益剰余金	783	1,145
自己株式	△1,341	△1,081
株主資本合計	13,860	14,481
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	5	37
評価・換算差額等合計	5	37
少数株主持分	3,038	—
純資産合計	16,904	14,519
負債純資産合計	42,973	34,159

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
売上高	21,176
売上原価	16,690
売上総利益	4,486
販売費及び一般管理費	3,071
営業利益	1,414
営業外収益	
受取利息	46
受取配当金	9
持分法による投資利益	90
その他	47
営業外収益合計	194
営業外費用	
支払利息	168
その他	119
営業外費用合計	287
経常利益	1,321
特別損失	
貸倒引当金繰入額	762
退職給付費用	539
特別損失合計	1,302
税金等調整前四半期純利益	19
法人税、住民税及び事業税	173
法人税等調整額	△157
法人税等合計	15
少数株主利益	100
四半期純損失(△)	△97

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期に係る連結財務諸表

(要約)四半期(連結)損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前第3四半期連結累計期間 (自平成19年4月1日 至平成19年12月31日)
	金 額
売 上 高	17,661
売 上 原 価	13,498
売上総利益	4,162
販売費及び一般管理費	2,527
営業利益	1,635
営業外収益	
1.受取利息	37
2.受取配当金	9
3.持分法投資利益	277
4.その他	9
計	333
営業外費用	
1.支払利息	157
2.たな卸資産処分損	18
3.出向者負担金	11
4.投資有価証券評価損	31
5.その他	52
計	271
経常利益	1,698
特別損失	
1.役員退職慰労金	194
計	194
税金等調整前四半期純利益	1,504
税金費用	491
四半期純利益	1,012